１０．地域医療連携・患者支援センター部

はじめに

当院の地域医療連携・患者支援センター部は、①入退院支援センター、②医療相談室、③地域医療連携室、④がん相談支援センターの４部門が置かれ、医師、看護師、ＭＳＷ、事務職員によって構成されている。４部門には、それぞれ室長が置かれ（いずれも併任）、協力して業務の運営にあたっている。４部門の業務はそれぞれ、①入退院を通じて多職種連携による「患者様のフロー（流れ）」の調整、②各種医療相談、③診療・検査予約、転院窓口、地域連携医療情報システム、病院広報誌の発行やホームページの運用管理、公開講座の開催支援を行っているが、それぞれの部門の仕事が相互に重なっており、一体となって上記業務を行ってきた。

入退院支援センターは、２０２６年３月末で現在２１診療科(整形外科・外科・心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、乳腺外科、産婦人科、眼科、循環器科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、皮膚科、膠原病内科)の入退院支援を行っている。

なお、当院は「地域医療支援病院」、「がん診療連携拠点病院」としての機能を付与されており、この機能を継続していくためには、一定以上の紹介率・逆紹介率の確保、医療機器の共同利用、共同診療病床の確保、相談窓口の設置、がん情報の提供、がん相談、病病連携・病診連携の構築など達成しなければならない条件がいくつか存在するが、その多くは、現在担っている業務に属している。その意味で、地域医療連携・患者支援センター部は当院の営業を支えている部門と言える。

また、地域医療連携システムの金鯱メディネットは、インターネット上で連携施設のパソコンから当院のカルテや画像などが閲覧できるシステムであり、その利用施設数は２０２６年３月末で１２８施設（診療所 81、病院 20、訪問看護 3、薬局 19、臨床 5）となっている。

以下に、地域医療連携・患者支援センター部における２０２５年度の実績を記述する。また、院内外で実施されている研究会・研修会の一覧もここに付記する。

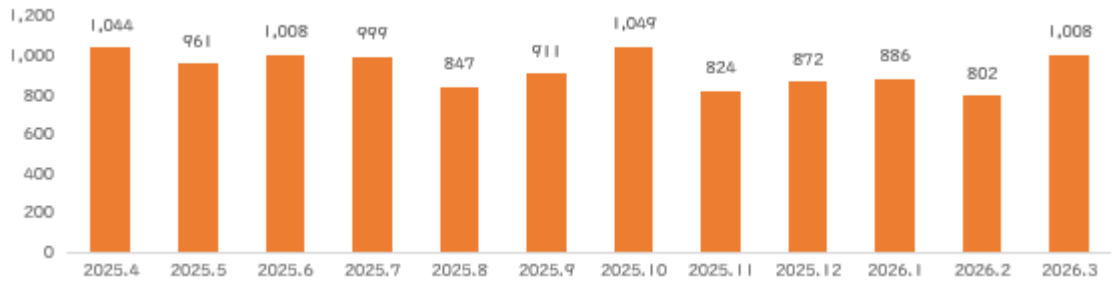
昨年度に引き続き２０２５年度も市民公開講座をはじめ、様々な研修会・研究会について感染対策を行った上で開催した。

地域医療連携室

１．医療連携実績

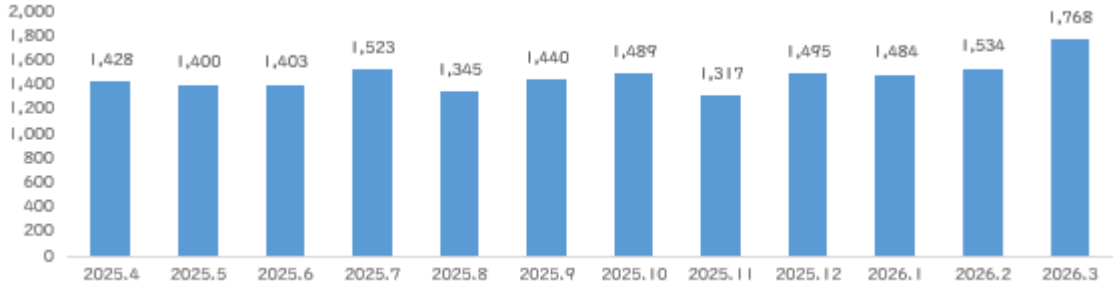
１）2025 年度の紹介患者数の推移を示す

紹介率　91.6%

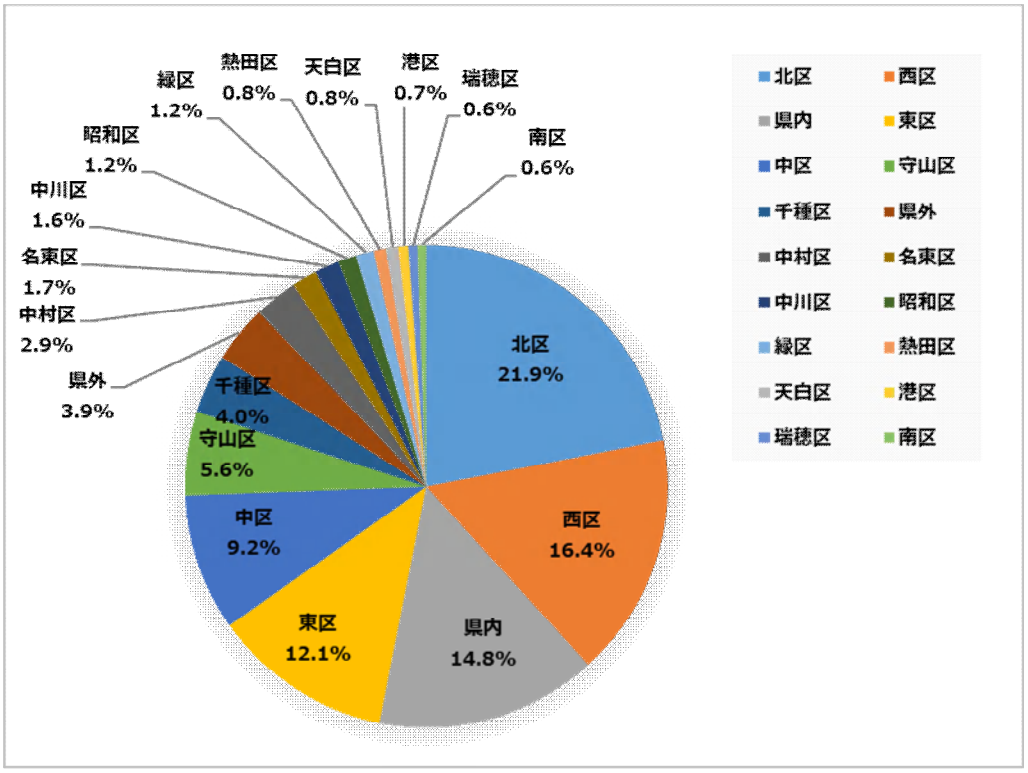


2）2024 年度の逆紹介患者数の推移を示す

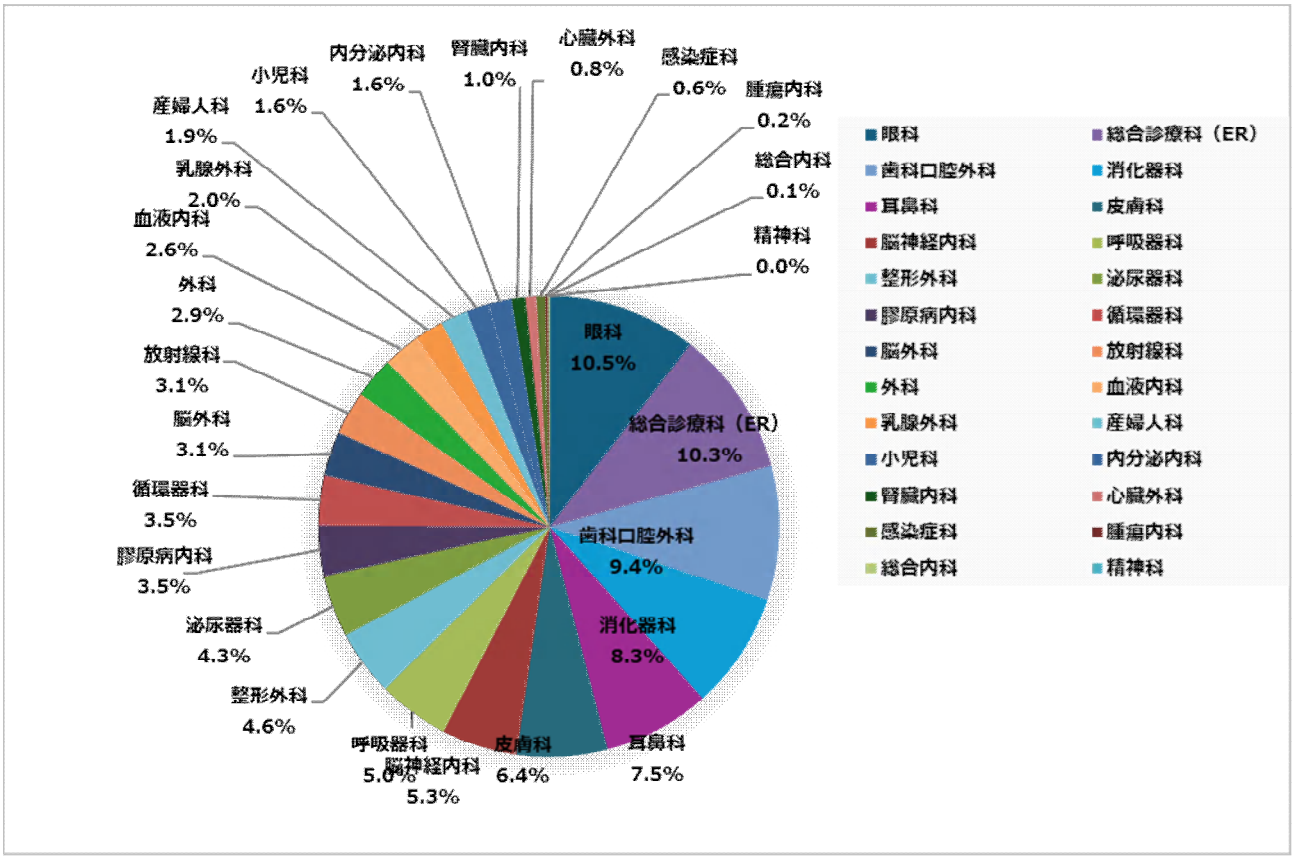
逆紹介率 144．3%



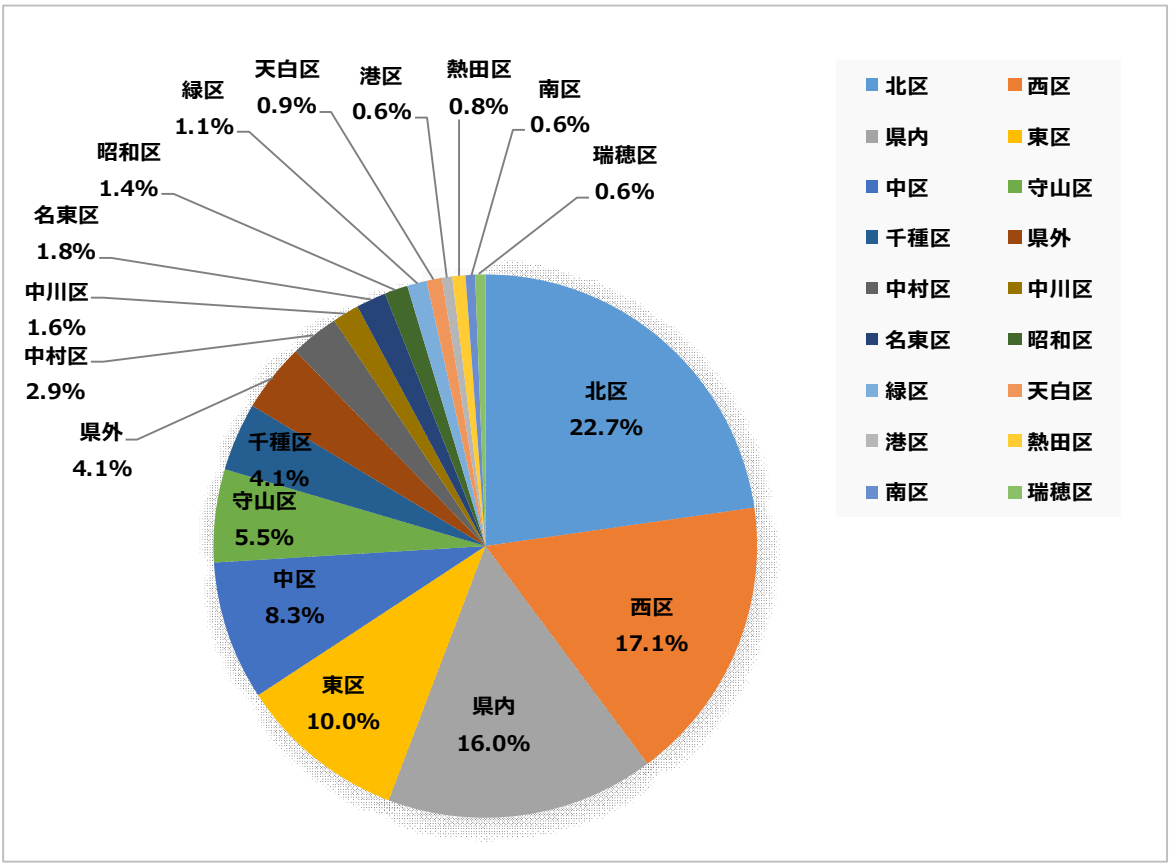
3）紹介患者の地域分布を示す



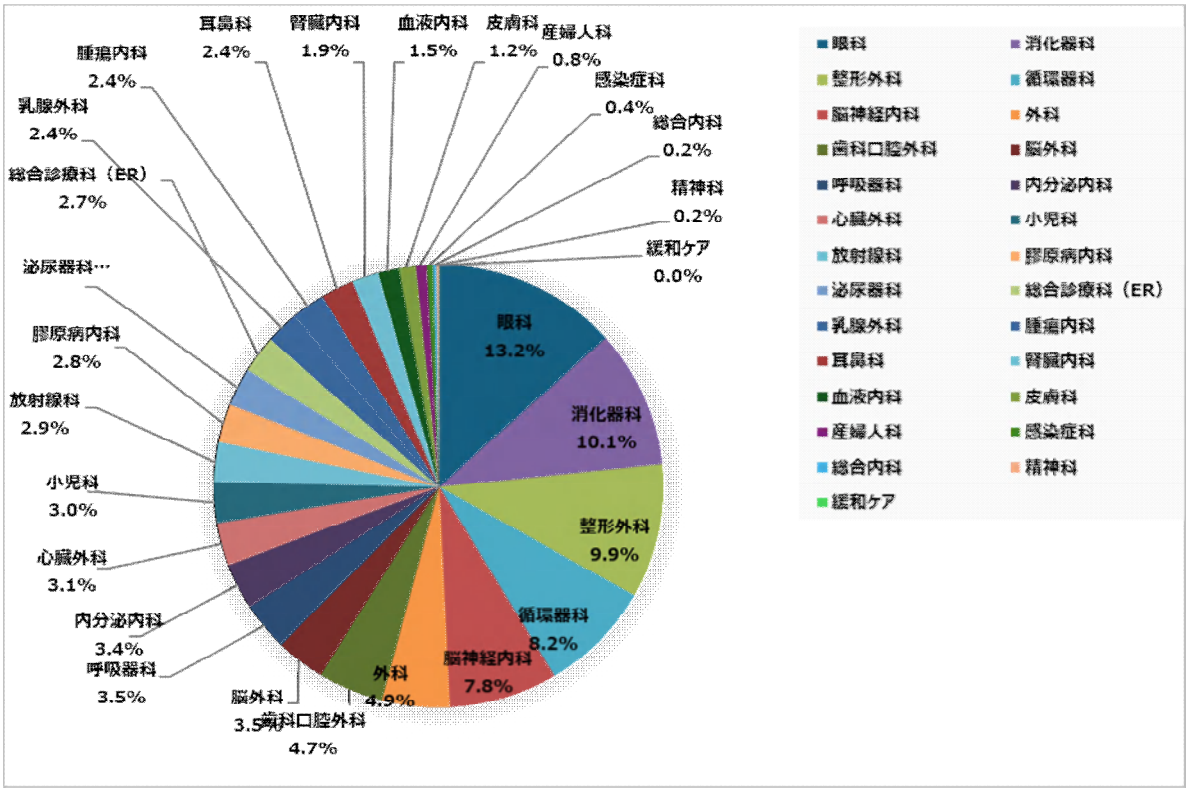
4）紹介患者の紹介先診療科分布を示す



5）逆紹介患者の地域分布を示す



6）逆紹介患者の紹介元診療科分布を示す



7）共同診療

当院では、名古屋市医師会病診連携システムの登録医と当院医師による共同診療及び指導を目的とした専用病床（開放型病床）を５床設置している。

〇2025 年度の開放病床利用による共同診療件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院患者実数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院患者延数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

8）共同機器の利用

〇2025 年度の大型機器共同利用件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MRI	33	27	31	32	14	23	25	17	23	28	27	23	303
CT	17	13	18	13	10	25	21	19	27	14	17	17	211
SPECT	11	2	6	6	4	2	1	4	2	2	2	4	46
PET-CT	0	0	2	1	0	1	3	0	1	1	3	0	12
合計	61	42	57	52	28	51	50	40	53	45	49	44	572

２．地域連携クリティカルパス会議

（大腿骨頸部骨折）※計画策定病院合同で開催

開催なし

３．名古屋市医師会病診連携システム運営協議会

2025 年 9 月 10 日（水）に定例の病診連携システム運営会議を対面形式にて開催した。

議題

１．2024 年度病診連携システム実績報告

２．ＩＴと地域連携

３．その他

４．医療連携交流会

院内外での医療連携促進を目的に講演や意見交換会を行う交流会。2025 年度は下記のとおり開催した。

日　時：令和８年２月 14 日（土）
場　所：メルパルクＮＡＧＯＹＡ（名古屋市東区）
時　間：17:00～19:30
参加者：1 部　116 名（地域医療連携関係者　66 名　院内職員　50 名）
　　2 部　113 名（地域医療連携関係者　65 名　院内職員　48 名）
概　要：（第 1 部）17：00～18：10
　◆講演１　『精緻な戦略と技術−当院が実践する胃癌・大腸癌治療』
　　名古屋医療センター　外科医長　服部　正嗣
　◆講演２　『患者さんに寄り添う肝疾患治療を目指して』
　　名古屋医療センター　消化器内科医長　村山　睦
　（第 2 部）18:20～19:30
　◆意見交換会

５．地域医療支援病院運営委員会

今年度は 4 回の定例の地域医療支援運営委員会を主に web 会議形式にて開催した。

○第一回　Ｗｅｂ会議にて開催
日時　2025 年 5 月 14 日（水）　14:00～15:00
場所　名古屋医療センター　管理棟５階　第１会議室

○第二回　第１会議室にて開催
日時　2025 年 9 月 10 日（水）　14:00～15:00
場所　名古屋医療センター　管理棟５階　第１会議室

○第三回　Ｗｅｂ会議にて開催
日時　2025 年 11 月 12 日（水）　14:00～15:00
場所　名古屋医療センター　管理棟５階　第１会議室

○第四回　Ｗｅｂ会議にて開催
日時　2026 年 2 月 12 日（木）　14:00～15:00
場所　名古屋医療センター　管理棟５階　第１会議室

６．研修

2025 年度研修・協議会・検討会等開催状況

研修・協議会・検討会が感染対策を行った上で開催した。

会　議　名	開催回数（年間）	登録医等参加者			院内参加者			その他（市民
		小計	医師	医師以外	小計	医師	医師以外	
市民公開講座（シンポジウム）	2				15	9	6	177
地域医療連携web意見交換会（各区、診療科web面談、web講演会）	3	22	21	1	31	25	6	
ＨＩＶカンファランス	1	123	20	103	10	2	8	
救命救急合同カンファレンス	1				14	8	6	22
胃腸疾患検討会	40				520	480	40	
在宅医療看護研究会	1	95	4	91	54	4	50	
がん患者の社会的支援に関する多職種協働事例検討会	2	61	2	59	15	2	13	
超音波検査従事者のためのマンモグラフィ読影講習会	1	47	3	44				
緩和ケア研修会	1				27	17	10	
放射線療法・化学療法の推進に関する研修会	1	3		3	18	4	14	
肝・胆・膵疾患検討会	40				520	480	40	
マンモグラフィー読影講習会・読影試験/読影更新講習会・読影試験	3	437	429	8	5	2	3	
愛知県乳がん検診研究会	4	187	15	172	25	8	17	
乳房超音波診断講習会	2	44	15	29	9	6	3	
超音波技師講習会/超音波医師講習会	2	13	13		1	1		
マンモグラフィ技術講習会	5	439	1	438	15	3	12	
名古屋オレンジバルーンカンファレンス	2	171	95	76	19	4	15	
合　計	111	1,642	618	1,024	1,298	1,055	243	199

７．金鯱メディネット

インターネットを利用した地域医療連携の運用を行っている。

このシステムでは参加登録された医療機関において当院の電子カルテや画像を閲覧できるシステムであり、地域の診療所等との連携を図っている。

○金鯱メディネット登録施設数（2026 年 3 月末現在）

・128 施設　（診療所 81、病院 20、訪問看護 3、薬局 19、臨床 5）

８．金鯱友の会

「金鯱友の会」と名付けて、職員との交流や親睦を図るとともに医療、保健などの新たな情報発信の会を設け、主に会員の方を対象にした講演会・勉強会を開催している。

９．市民公開講座

○2025 年 7 月 12 日（土）開催（9:50～11:50）

会場：デザインホール

※名古屋市内３機構病院合同市民公開講座（名古屋医療センター・東名古屋病院・東尾張病院）

「あなたは大丈夫？潜む健康リスクとその予防」

・がん治療とお口の 切っても切れない関係

名古屋医療センター　歯科口腔外科医師　　上嶋　伸知

・いつもの家族じゃないみたい～せん妄って何？～

東尾張病院　精神科医長　　丸山　明子

・肺炎から身を守ろう！～今日からできる予防術～

東名古屋病院　内科系診療部長　　林　悠太

［参加者 132 名］

１０．広報誌の発行

2025 年度は 6 回発行し、患者さん及び連携医療機関へ情報発信をした。

発刊号	発行月	巻頭言	ドクターよもやま話	職場紹介		トピックス	医療最前線	連携医紹介
第124号	2025.5	『地域とともに進化する 医療をめざして』 副院長 小嶋 俊久	『腎臓内科診療再開のお知らせ』 腎臓内科医長 井口 大旗	新任挨拶		新任挨拶	新任医師紹介	つるたクリニック眼科・泌尿器科 院長 鶴田 勝久
第125号	2025.7	『名古屋の7月』 統括診療部長 飯田 浩充	『With You ～あなたとプレストケアを考える会～』 乳腺外科医長 林 孝子	入退院支援センター	救命救急センター（ER・ICU・HCU）	『病院機能評価（機能種別：一般病院2）の更新審査を受審しました』	『肥満症治療の新時代へ』 糖尿病内分泌内科医長 山家 由子	金子内科 院長 金子 晴生
第126号	2025.9	『電子処方箋が始まりました』 薬剤部長 平野 隆司	『動脈硬化疾患予防に良い食事』 循環器内科医長 森 和孝	薬剤部	集中管理棟（心臓血管センター/CCU）	『名古屋市内3病院合同 市民公開講座を開催しました』	『「がんゲノム医療」のための「がん遺伝子パネル検査」』 病理診断科病院医長 岩越 朱里	中切パークサイドクリニック 院長 山東 元樹
第127号	2025.11	『Dx（デジタルトランスフォーメーション）導入の時代に』 看護部長 太田 郁子	『赤ちゃんのなみだ目』 眼科医師 岡戸 聡志	東8病棟	検査科	『院内で合唱コンサートが行われました』	『手術と痛み』 麻酔科病院医長 宗宮 奈美恵	桜花ホームクリニック 院長 山口 仁
第128号	2026.1	『新年のご挨拶』 院長 小寺 泰弘	『無痛MRI乳がん検診のお勧め』 放射線科医長 大岩 幹直	外来3階	栄養管理室	『With you NAGOYA 2025の開催について』	『慢性副鼻腔炎について』 耳鼻咽喉科医長 寺西 正明	さぶり整形外科 院長 岩田 淳
第129号	2026.3	『名古屋医療センターQMS-H元年』 副院長 永井 和宏	『乳がん治療におけるオンコタイプDx検査の役割』 乳腺外科医長 林 孝子	企画課（医事）	外来2階	『2025年度 治験・臨床研究 院長表彰』	『ドラッグラグとドラッグロス』 臨床研究センター 研究開発推進室長 間水 匡大	さかもと内科腎クリニック 院長 坂本 いずみ

医療相談室・がん相談支援センター

1.はじめに

２０２５年度の医療相談室は前年度と変更なく、瀬口、橘、明神、野原（非常勤）のソーシャルワーカー４名体制、中江（非常勤）伊藤（非常勤）早川（非常勤）事務員３名の総勢７名の体制で業務を行った。

２０２１年度に入退院・病床管理室（入退院支援センター）が発足し、地域医療連携・患者支援センター部が地域医療連携室・入退院・病床管理室（入退院支援センター）・医療相談室・がん相談支援センターと４つの部門となり、ソーシャルワーカーも医療相談室・がん相談支援センターと入退院・病床管理室（入退院支援センター）にそれぞれの配置となった。医療相談室・がん相談支援センターのソーシャルワーカーに対しては、医療相談室長（ソーシャルワーカー瀬口）・医療相談室係長（ソーシャルワーカー橘）がソーシャルワーカーの専門職としてスーパービジョンを行い、入退院・病床管理室（入退院支援センター）のソーシャルワーカーは、入退院調整係長（看護師長）が上長という体制となった。

地域がん診療連携拠点病院に係るがん相談支援センター業務は医療相談室のソーシャルワーカーが担った（がん相談支援センター専従がん専門相談員は、瀬口、専任がん専門相談員は吉田副看護師長（がん化学療法看護認定看護師）・明神・野原、兼任がん専門相談員は橘）。吉田副看護師長はがん相談支援センターに常駐していないため、主にがん地域連携パス業務を担った。医療相談室ソーシャルワーカー4 名全員が、認定がん専門相談員を取得し、より質の高いがん相談に従事した。

医療相談室・がん相談支援センターソーシャルワーカーは、がん患者や緩和チーム介入患者、虐待やDV（疑い含む）、精神疾患、周産期、臓器移植等ソーシャルワーカーの専門的な技術をより必要とする患者の担当と、地域がん診療連携拠点病院に関わる院内外の連携業務・院内外の患者等からのがん相談・患者向けのがんにまつわるイベント運営等を担った。また、院内の各種チーム医療（緩和ケアチーム・AYA サポートチーム・臨床倫理サポートチーム・アピアランスケアチーム・養育支援チーム）に参画した。

個別援助業務においては、退院援助・支援が大半を占めており、患者、家族等の社会的背景、問題も複雑化かつ多様化し、退院援助にかかる時間や労力も増大傾向となった。特に、身寄りの無い方への支援は時間や労力が増大した。平均在院日数の短縮化も求められる中、ソーシャルワーカーのみでなく多職種と連携しながら退院支援を行った。外来での療養支援（在宅医療導入等）や意思決定支援も増大した。がん患者に関しては、経済的な支援や就労支援を積極的に行った。就労支援は、外部機関（治療と仕事の両立支援ネット　ブリッジ、愛知産業保健総合支援センター）と協定締結し、協働して支援を行った。

医療相談室内では、スーパービジョン体制を強化し、個別スーパービジョンやグループスーパービジョンを習慣的におこなった。また、月に１回医療相談室カンファレンスや抄読会を行い、テーマを決めた勉強会や事例検討など、ブラッシュアップも行った。

自己研鑽のため、各種研修への参加、認定等取得に取り組んだ。２名が認定医療ソーシャルワーカー、4 名が認定がん専門相談員、4 名が両立支援コーディネーター、2 名が臨床倫理認定士、１名が救急認定ソーシャルワーカー、３名が実習指導者認定、２名が認定社会福祉士認証・認定機構スーパーバイザー登録を取得した。

医療相談室では、地域がん診療連携拠点病院としてのがんサポート活動の業務も行っており、平成２７年度より地域活動として名古屋市療養サービス事業団が公益事業として運営する「まちかど保健室」にて出張がん講座の企画、がん治療体験者による療養相談会の開催、がん患者・家族を対象にした学習会の企画・開催（がん患者サロンやすらぎの会）、緩和ケア週間のイベントの企画運営、療養と就労の両立支援を図るための社会保険労務士と共同した就労支援相談会の企画・開催、当院のがん患者向けのフィットネスイベントであるキャンサーフィットネスの企画・運営、がん相談公式 SNS による広報活動を行っている。本年度は「まちかど保健室」の１０回、就労支援相談会３回、ピアサポーターによる療養相談会１２回、緩和ケアイベント、キャンサーフィットネスを開催した。がんサポート活動状況やがん関連の情報などについて、年３回「やすらぎ通信」という形で広報誌も発行した。

また、地域の保健医療福祉関係機関向けの研修である「在宅医療看護研究会」の企画・運営も行い、2025 年度は 149 名の参加者となった。2025 年度より、医療相談室ソーシャルワーカー主催の、「がん

患者の社会的支援に関する多職種協働事例検討会」を開催することとし、2025 年度は２回開催し、定員 30 名満席となった。

がん地域連携パス業務については、医療相談室で会議報告資料やデータ集計をおこなった。

２０２５年度の具体的な業務の取り組みについては、以下報告する。

２.業務報告

１）報告にあたって

２０２５年度における医療社会事業業務は当院の「医療社会事業運営要領」に基づき、医療社会事業委員会において審議・決定された「医療社会事業業務指針」および「ソーシャルワーカーの業務基準」、さらに平成１４年１１月２９日に健康発第１１２９００１号をもって発せられた厚生労働省健康局長通知「医療ソーシャルワーカー業務基準」を根拠に行ったものである。

報告のかたちについては、「業務基準」に照らし合わせ整理して列挙した。

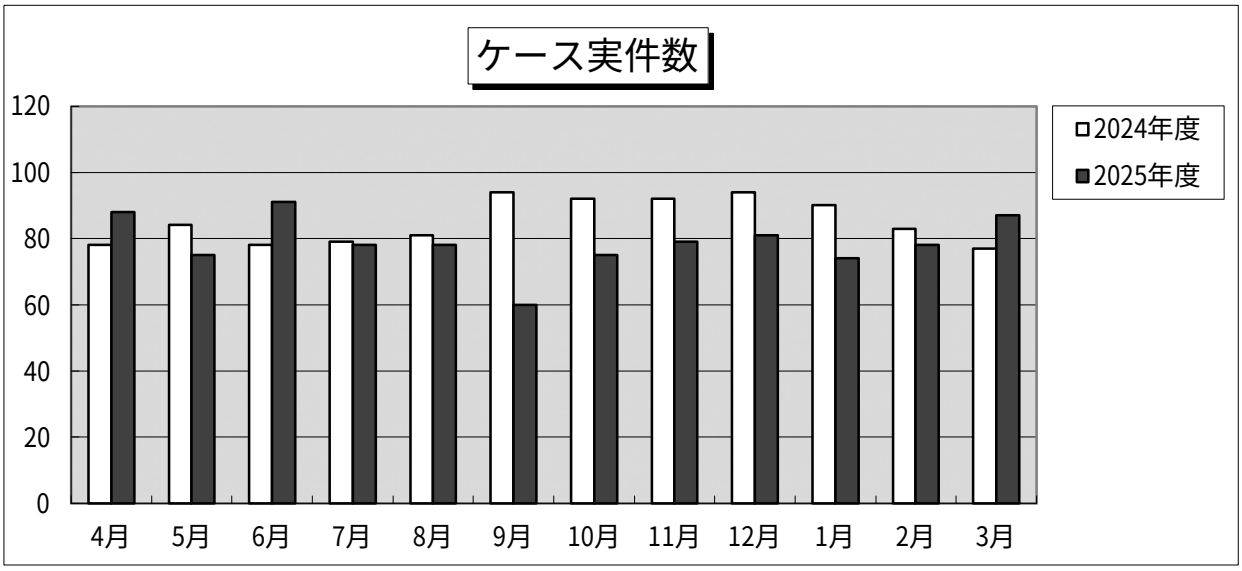
２）個別援助

ソーシャルワーカーの主要業務である患者や家族に対する個別援助業務について、本年度の状況を概観してみた。

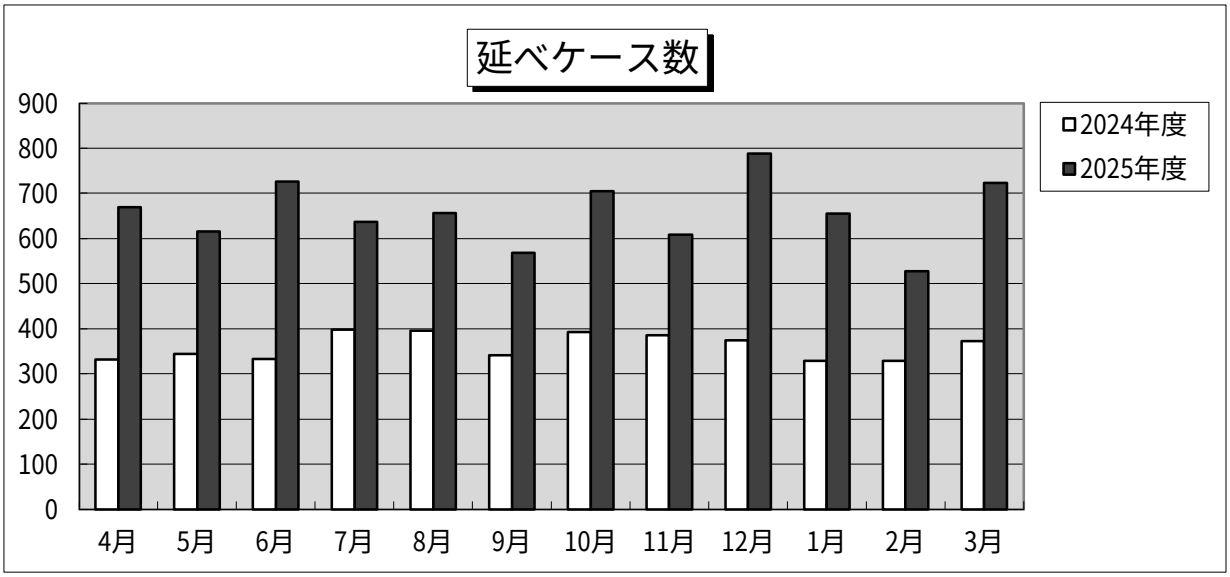
① 実ケース及び延べケースの月別件数

実ケースとは、その月に実際に取り扱ったケース数であり、延べケースとは、そのケースについて何らかの措置を行った日数の積算である。

２０２５年度は全体で、実ケース数が 944 件、延べケース数が 7881 件であった。



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2024 年度	78	84	78	79	81	94	92	92	94	90	83	77	1022
2025 年度	88	75	91	78	78	60	75	79	81	74	78	87	944



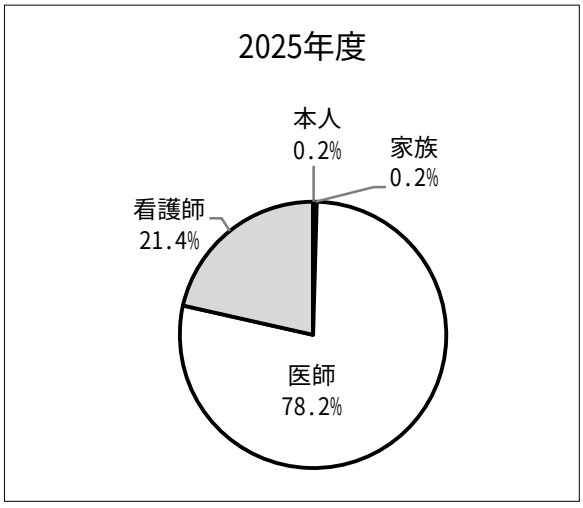
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024年度	331	344	333	398	396	341	392	385	374	328	328	372	4322
2025年度	669	616	726	636	657	568	705	609	789	655	528	723	7881

② 実ケースの紹介者別件数

実ケースの「紹介者」とは、ソーシャルワーカーがケースを受け付けた直接の相手方と定めている。今年度も医師・看護師からの紹介は約99.6%と高値を示している。

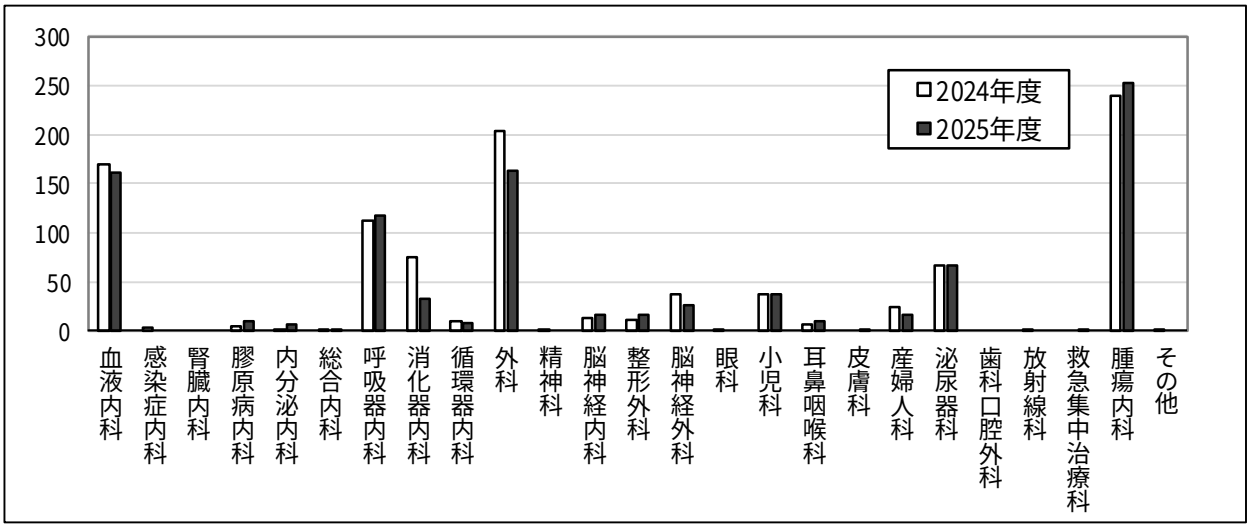
※「関係機関」とあるのは、行政、地域包括支援センター、保健所、訪問診療、訪問看護ステーション、ケアマネジャーなどである。

	2024年度	2025年度
本人	3	2
家族	11	2
医師	846	738
看護師	162	202
その他の職員	0	0
関係機関	0	0
他の医療機関	0	0
その他	0	0
合計	1022	944



③ 実ケースの診療科別件数

腫瘍内科、外科、血液内科の順に多く、この 3 診療科で全体の約 60%を占める。

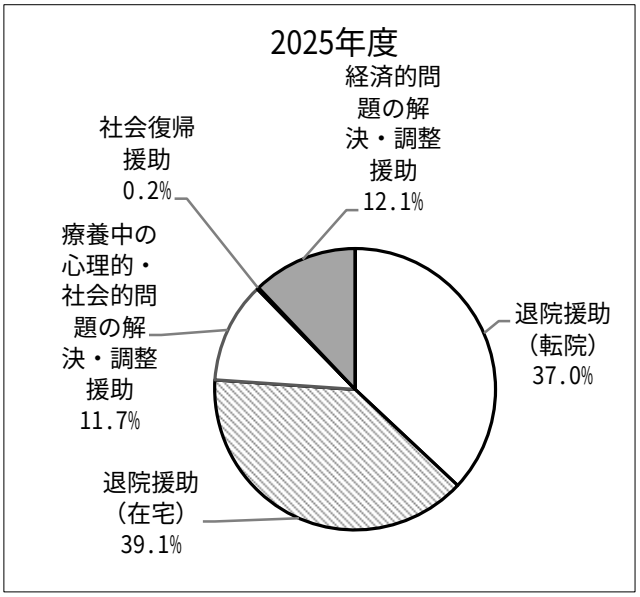


	血液内科	感染症内科	腎臓内科	膠原病内科	内分泌内科	総合内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	外科	精神科	脳神経内科	整形外科	脳神経外科	眼科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	産婦人科	泌尿器科	歯科口腔外科	放射線科	救急集中治療科	腫瘍内科	その他
2024年度	170	3	0	5	1	2	112	75	10	204	1	13	11	37	1	37	7	0	24	67	0	2	0	239	1
2025年度	161	0	0	10	7	1	117	33	8	162	0	17	17	26	0	37	10	2	16	66	0	0	2	252	0

④ 実ケースの内容別件数

ケースの内容を「医療ソーシャルワーカーの業務基準」の分類によってまとめると下表のようになる。相談内容は、ここ数年来の傾向通り、退院援助（転院・在宅）が全体の約 7 割以上を占めた。

	2024 年度	2025 年度
退院援助（転院）	388	349
退院援助（在宅）	376	369
受診・受療援助	11	0
療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	101	110
社会復帰援助	3	2
経済的問題の解決・調整援助	140	114
その他	3	0
合計	1022	944



⑤ 措置の手段

問題解決のためにソーシャルワーカーがどんな手段を用いたかを示すと次のようになる。

「面接」は持ち込まれた患者や家族の「問題を解決するために明確な意図を持って意識的に行われる話し合いである。」と定義されている。したがって、言語を媒介にしてソーシャルワーカーと患者、家族、関係者との間で、信頼関係を基礎に状況判断、援助方針の設定、措置などが行われる個別援助業務の中心的手段である。

「合同面接」とは、ケースの直接的な調整を図る目的で、ケース側（患者や家族）とワーカーに加え、院内職員や関係機関など三者以上で行われる面接をいう。

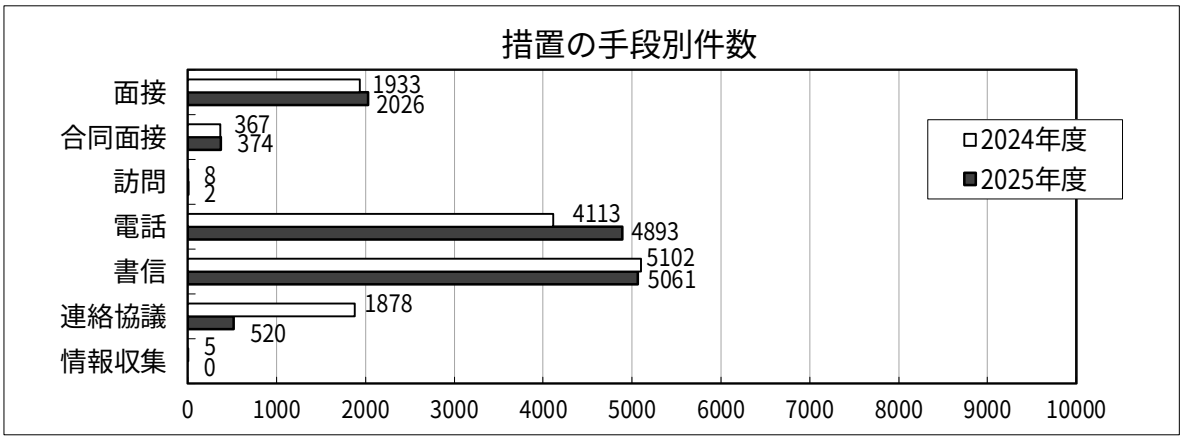
「訪問」とは、ケースの解決のためにワーカーが必要な手続きを経て、患者の家庭、勤務先、その他関係者などを訪れ、状況把握や調整行為を行うことをいい、病棟訪問など院内を行き先とするものは含まれない。

「電話」とは、患者や家族に対して面接には至らない程度の簡単な内容伝達を電話で行うことをいう。

「書信」とは、通常の概念による意志伝達手段に加えて、カルテへの記載、報告書等も含めている。

「連絡協議」とは、ソーシャルワーカーから院内職員等への情報収集、問題解決に向けての協議などを指す。

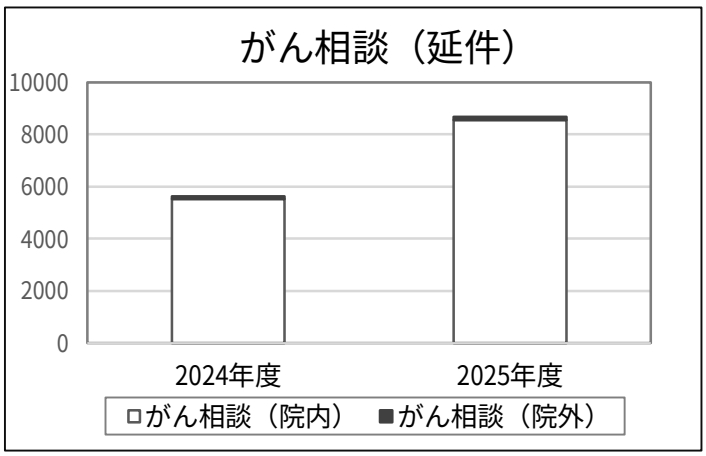
２０２５年度の総措置件数は 12876 件であった。



	面接	合同面接	訪問	電話	書信	連絡協議	情報収集	合計
2024 年度	1933	367	8	4113	5102	1878	5	13406
2025 年度	2026	374	2	4893	5061	520	0	12876

⑥ がん相談件数

	2024 年度	2025 年度
がん相談件数	5625	8672
内、院外	98	122



３）個別援助業務以外の業務

２０２５年度も個別援助業務が中心ではあったが、それ以外の業務も、以下の通り行ったので報告する。

院内外の会議やカンファレンスでは地域連携、疾患毎（がん、精神など）や、虐待などＭＳＷの専門性を求められる領域が広がっている。

	内容分類	具体的内容	2025 年度
院内業務	常例的業務	患者サポート体制に係る相談	1129
		上記以外の相談（情報提供・問い合わせ・調整等）	640
		来客対応（他病院関係者等）	99
		がん相談	1774
	院内会議への参加	診療・病床管理・医療社会事業・がんセンター・地域連携推進・QMS-H ワーキング・リハビリ　等	126
		緩和ケアチームカンファ・患者サポカンファ等	207
地域活動	関係機関等との会議	がん地域連携パス・児童虐待・小児がん　等	40
	その他の地域活動	市民公開講座・医療連携交流会　等	5
		病院訪問	1
研究教育	学会・研修会等への参加	国立病院機構ソーシャルワーカー協議会・がん相談支援センターにまつわる研修等	120
	講義・実習指導など	研修医見学　等	44
合計			4185

※常例的業務の中の患者サポート体制による相談やがん相談は、個別援助業務を除く複数回の相談を必要としない患者・家族からの直接相談ケースである。

４）がんサポート活動

がん診療連携拠点病院として、がんに関する患者活動支援、地域活動などがんサポート活動を行ったので、以下の通り報告する。

がんサポート活動内容		2025 年度
がん治療体験者による相談会（ピアサポーター）		12 回
社会保険労務士による就労相談会		3 回
やすらぎサロン	患者、家族向け学習会	10 回
	オンラインがん患者サロン	3 回
	やすらぎ通信	3 回
まちかど保健室	がん出張講座	10 回
緩和ケア週間イベント		1 回
キャンサーフィットネス		1 回
合計		43 回

※「がん治療体験者（ピアサポーター）による相談会」
毎月第３水曜日に外来棟１階ホールで、がん治療体験者やそのご家族が、体験からの学びを生かし、新たにがんになった患者さんやご家族をサポートするための相談会を開催している。
※「社会保険労務士による就労相談会」
がん患者さんの中には治療と就労の両立に悩みや不安を抱えている方も少なくないため、３か月に１回第３水曜日に社会保険労務士による就労相談会を開催している。
※がん情報コーナー「やすらぎサロン」
患者さんやご家族、同じ悩みを抱えている方々が語らえるやすらぎの場として平成２２年２月、サービス棟１Ｆ食堂横に開設。がん関連の書籍や冊子、インターネット閲覧なども出来、情報収集の場にもなっている。事務員を配置し、平日 10 時～15 時まで常時開室している。またがん患者サロン「やすらぎの会」（がんに関するテーマで当院職員が講師となりさまざまな勉強会や、患者さんやご家族同士の語らいの会）を開催している。
※「まちかど保健室」
名古屋市療養サービス事業団が運営している公益事業で、地域住民に対し、保健・介護相談事業、健康づくり講座、認知症カフェを実施している。

６）学会発表・講師等

学会発表	
第 73 回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会　シンポジスト 「外来及び小児周産期ソーシャルワークチームの活動～各分野の活動と令和 8 年度診療報酬改定に向けて～」	瀬口
第２０回愛知県医療ソーシャルワーカー協会学会　口演 「救急外来における身元不明患者の未収金問題とＭＳＷの役割～警察が関与した死亡事例を中心に～」	橘
第 79 回国立病院総合医学会　口演・ポスター ①「当院の医療社会事業委員会 48 年間の歩みとこれからの展望～ソーシャルワーカーの組織体制強化のために～」 ②「MSW によるがん患者の在宅退院援助の意義について－退院時共同指導料の実績と再入院率に見る効果検証－」 ③「MSW による外来がん患者の在宅療養援助の現状と特徴－外来がん患者在宅連携指導料算定の取り組みを通して－」	①瀬口 ②橘 ③明神
第 19 回日本医療マネージメント学会　愛知支部　口演 「「つながる」が新たな地域医療構想を拓く～MSW のネットワーク機能を活かしたオンサイト型多職種研修の実践報告～」	瀬口
第７回日本緩和医療学会東海北陸支部　口演 「急性期病院 MSW が担う終末期援助の一例～身寄りの無いがん患者へのＭＳW援助とシャドウワークの関係性～」	瀬口
第４８回死の臨床研究会学術大会　ポスター 「医療ソーシャルワーカーによる身寄りのない高齢患者の意思決定支援の在り方－判断能力のある方への課題と支援－」	明神

講師等	
「With You Nagoya」講師	瀬口
「愛知県がん相談支援センター相談員研修」講師	瀬口
「がん患者サロンやすらぎの会」講師	瀬口・橘・明神
「まちかど保健室」講師	瀬口
「ミーネット市民公開講座」講師	瀬口

「緩和ケア研修会」講師	瀬口
「愛知県医療ソーシャルワーカー協会研修」講師	明神
「同朋大学」ゲスト講師	明神
「日本医療ソーシャルワーカー協会研修（オンラインセミナー)」講師	瀬口
「養育支援サポート研修」講師	瀬口・橘
「愛知県医師会 ACP 普及研修会」ファシリテーター	瀬口
「国立病院機構東海北陸グループ入退院支援に関する実践力向上研修」講師	瀬口
「緩和ケア実行部会」講師	瀬口
「がん患者の社会的支援に関する多職種協働事例検討会」事例提供	瀬口・橘

３.スタッフ

医療相談室・がん相談支援センター

瀬口理恵	医療相談室長・がん相談支援センター室長 医療ソーシャルワーカー・主任医療社会事業専門職	専従がん専門相談員 緩和ケアチーム AYA サポートチーム 臨床倫理サポートチーム 養育支援チーム アピアランスケアチーム
橘延之	医療相談係長・がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー・医療社会事業専門職	兼任がん専門相談員 患者サポート体制加算専任 院内移植コーディネーター 緩和ケアチーム 養育支援チーム アピアランスケアチーム
明神麻歩	医療相談室・がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー・医療社会事業専門員	専任がん専門相談員 緩和ケアチーム 臨床倫理サポートチーム
野原まりな	医療相談室・がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー・医療社会事業専門員（非常勤）	専任がん専門相談員 緩和ケアチーム

４.資格・認定・修了研修等

社会福祉士	瀬口、橘、明神、野原
精神保健福祉士	瀬口、橘、明神
認定医療ソーシャルワーカー	瀬口、明神
救急認定ソーシャルワーカー	明神
認定がん専門相談員	瀬口、橘、明神・野原
認定社会福祉士認証・認定機構スーパーバイザー登録	瀬口、明神
実習指導者養成認定研修	瀬口、橘、明神
両立支援コーディネーター	瀬口、橘、明神、野原
愛知県施設内移植情報担当者新任者対象研修会	瀬口・橘・明神
日本医療メディエーター協会認証医療コンフリクト・マネジメントセミナー	瀬口
がん相談支援センター相談員基礎研修１～３	瀬口、橘、明神、野原
がん相談支援センター相談員指導者研修	瀬口
小児がん相談員専門研修	瀬口、橘、明神、野原
AYA 世代がんサポート研修	瀬口、橘、明神

臨床倫理認定士	瀬口、明神
緩和ケア研修会	瀬口、橘、明神
小児がん長期フォローアップ研修	瀬口、橘、明神、野原
がんサポートグループ企画・運営者のための研修会	瀬口・明神
AYA 世代がんサポート研修会	瀬口・橘・明神
AYA チームビルディング研修会	瀬口
保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修	瀬口
医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修	瀬口
E-FIELD（本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会）	瀬口・橘
虐待研修プログラム BEAMS１	瀬口・橘・明神・野原
虐待研修プログラム BEAMS２	瀬口

５.人材開発体制

【研修・教育方針】

ソーシャルワークの価値と倫理を根底において、専門職としてミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク実践ができるよう、スーパービジョン体制による保証と専門職育成を行う。また、組織運営や地域活動にも貢献できるソーシャルワーカーを開発していく。

【研修・教育目標】

・ソーシャルワーカー（MSW）専門職として必要な知識・技術・コンピテンシーが習得できる
・多職種や医療チーム、多機関と連携できる実践力が習得できる
・倫理綱領、プロフェッショナリズムを意識し、組織・地域に貢献できる人材となる

【評価方法】

・ラダー、マネジメントルーブリックによる自己および他己評価
・スーパービジョン（個人、グループ）
・がん相談対応評価表

【OJT】

①個別スーパービジョン
日々の実践で行う
②グループスーパービジョン
毎週火曜日　朝９時半～１０時
第１火曜日アクションプランの進捗確認　・第４火曜日がん情報評価
③医療相談室カンファレンス
毎月第３水曜日　１５時～１５時半

【OFF-JT】

・名古屋医療センター院内各種研修
・国立病院機構各種研修
・国立がん研究センターがん相談員各種研修
・愛知県医療ソーシャルワーカー協会シラバス認定研修
・日本医療ソーシャルワーカー協会シラバス認定研修

【実習指導】椙山女学園大学より実習生を受け入れ、未来の MSW 育成に貢献